

<市町村のまちづくり>

新 常陸太田駅が誕生（常陸太田市）

～安全・便利に、そして人々が集う場所～

常陸太田市都市計画課 課長補佐 佐川 洋年

■経緯

常陸太田市は茨城県の北東部にあって県都水戸市から20km、東京から120キロメートル圏に位置しています。

平成16年12月に金砂郷町・水府村・里美村を編入し市の面積は372km²、県内で最も面積が広くなりました。

本市では、平成17年3月の日立電鉄線廃止に伴い、道路や駅前広場などの施設を整備する新たな基本方針を定め、その後、地元地権者、商店会、関係行政機関、鉄道会社などと協議を進めてまいりました。

平成18年度に、まちづくり交付金事業による都市再生整備計画を策定し、平成19年10月、都市計画の変更を終え、県事業の国道293・349号交差点改良工事と併せ一体的に整備を進めてまいりました。

そして、駅前広場整備では、全国でも例が少ない鉄道（レール）移設に伴う切替えが行われ、限られた狭い区域での撤去・移設を繰り返す複雑な工事となりました。東日本大震災の被災も受けましたが、関係者の尽力により平成23年6月、完成に至りました。

■施設整備概要

平成18年度から同23年度に至る施設整備の概要をまとめると、以下の通りになります。

○交差点改良

県事業において形状の悪い変則交差点（国道293、349号）を十字交差点に改良し、交通渋滞の緩和を図りました。この改修により、信号処理は3箇所から2箇所になりました。



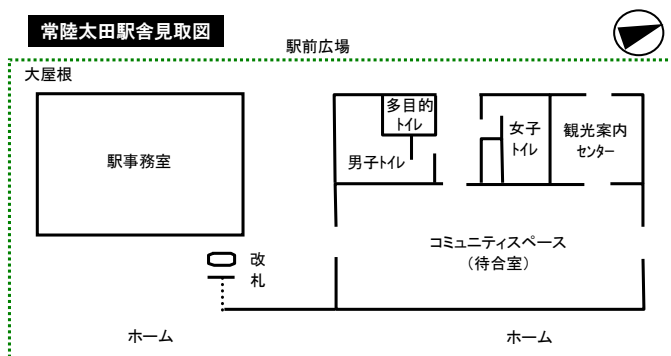
○駅舎・駅前広場等

駅舎及び駅前広場等については、風土や歴史との調和を重視し、環境にやさしく、バリアフリーにも配慮した施設整備を目指しました。

なお、基本的なデザインコンセプトの決定に際しては、地元住民、高校・大学生等によるワーキンググループを設置し、デザインや利活用について意見を集約しました。

・駅舎

駅舎は、JR 駅事務室、市が管理するコミュニティスペース、観光案内センター、トイレより構成されており、延べ床面積は 420㎡です。



外観は、西山荘をイメージした大屋根造りで、屋根には太陽光発電を設置（発電量 4.16 KW）、屋根組は集成材を使用し、コミュニティスペースの床材には大理石、腰板等は地元産材を用いています。



・駅前広場等

子供から大人まで多くの市民が集えるイベント広場や鉄道利用者等が安全にバスやタクシーに乗り換えることができる交通広場を整備しました。

広場舗装材に再生インターロッキング舗装を採用し、模様は西山公園の桜の花びらをイメージしたものです。

ベンチ・プランター・車止め等の修景施設についても、駅舎と調和を重視し、再生木材（木廃材を粉砕した木粉と廃プラスチックを混合した高耐久性リサイクル木材）等を使用し、照明は LED モデルとしました。



交通広場には、バス乗降場（3 台）、タクシー乗降場（2 台）、タクシープール（7 台）、一般乗降場（内身障者乗降場 1 台）、バス待機場（2 台）が設けられ、また、JR 利用者のための無料駐車場としては、一般車一時駐車場（8 台内身障者 1 台）、駅前駐車場（一般車 23 台内身障者 1 台、二輪車 8 台）が、さらに、駅北駐車場（駅前会館前月極 28 台）及び駐輪場（375 台内原付自転車 85 台）の整備もなされました。

